

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2673000127		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長岡京ケアハートガーデン グループホーム西山の郷		
所在地	京都府長岡京市奥海印寺三段畑8-1		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」
所在地	〒612-8243 京都市伏見区久我御旅町3-20
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭であることを大切にしてその方の生活習慣が継続できるよう、またそれぞれの力が発揮できる場を提供して自身や喜びに繋げていく。 ・環境の変化への不安感や心情を考慮して、家族のような関係を築くことを心がけている。 ・食事は大きな楽しみであり、季節の食材を使い手作りしている。咀嚼や嚥下、身体状況や好みなどに配慮して個々の食べやすい形態に変えて提供して、それぞれのペースにて食べてもらっている。 ・認知症が深まり表現が上手に出来なくなった方には、個々の思いの伝え方を出来るだけ理解できるように職員間で話し合う機会を持ち、その方の心身の状況に添ったケアを行えるように努めている。 ・一生涯の終の棲家である安心感を得ていただけるように、職員は医療者との連携の中でスキルの向上意識を図りその中で生きる力強さや喜びを、共に過ごすなかで大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・開設より年月日が経ち、年齢を重ね身体状況も変わってきている方と新しく入居された方との関わりを模索しながら、お一人お一人の状態を鑑みてその人らしさを保ち続けられるよう「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」を念頭に、個々にあったケアを行っている。 ・散歩時、地域の方々から暖かい声かけや気配りを頂くこともあり、地域に密着していることを感じる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の神社のお祭の時には自治会に方にお願いをして来てもらった子供神輿や獅子舞の訪問に、童心に還られたような表情を見せてくださった。 ・近隣の地主の方のご好意にて散歩時にコスモスを摘ませて頂いたり、お野菜を頂いたりという交流を持たせて頂いている。 ・近隣の幼稚園から定期的に訪問して下さる園児さんとの和やかな時間を楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生の体験学習の受け入れや、常に近隣の方の認知症の家族を抱える方の相談や見学を受け入れられる環境を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1回、定期的に運営推進会議を開催。ユニットの状況や日々の様子を報告させていただいている。 ・会議の中で頂いた様々な意見や情報を入居者のケアに反映させている。 ・今年度は看取りについて話すことが多く、終末期の過ごし方について意見を聞くことができた。ご本人を中心として、ご家族やかかりつけ医、訪問看護師と職員とが大きなチームとして行っていることを話し、ご理解いただけた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の開催する会議には、管理者が参加して情報交換を行っている。 ・市内や乙訓圏域での講演や研修には積極的に参加、地域ケアについて共有する事にてサービスの質の向上を心がけている。 		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニット会議などで身体拘束について研修を行い、理解に努めている。 ・機能低下により、身体のバランスを整えることを自ら行えない入居者の方などに危険性を感じる機会が増える中、密なケアカンファレンスを行ったり家族の理解と協力のもとの、安心と安全を確保していく工夫をしている。 ・転倒リスクの高い方に動きたい気持ちがわかり早く対応できるように、ご家族と相談して起き上がり時のセンサーを利用しているケースもある。 ・行動を制限できるのではなく、どのような時に動きたいのかやそのタイミングなどは日々の観察の中で職員が共有して、安全に過ごせるよう見守っていく。 		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が自己覚知を心げながらストレスを蓄積しないように、情報や対応の工夫を交換できる場を作り虐待防止に努める。 ・様々な研修や書物の事例などを通して虐待について学ぶ機会を持ってケアに活かしている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に利用している方は存在しないが、家族の高齢化という問題もあり、今後検討していく必要性は感じている。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の前に見学やお試し入居を行う事が出来る。 ・本人やご家族の意向の確認や環境が変わることの不安な気持ちなどを傾聴することで、安心感に繋げている。 ・制度改正などについてはその都度説明を行い、理解を図っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族との日ごろの会話から様々な要望を話しやすい環境を作り、運営に反映できるように心がけている。 ・運営推進会議でご家族の意見を伺う機会があり、運営に反映させている。また広報誌にも公表して全てのご家族に周知もしている。 ・「外出したい」「出来る事を継続させたい」「いつまでも歩いていてほしい」など、ご本人やご家族の要望に対して散歩やドライブ、日常生活での役割作りや体操などを行うことにより、ご本人の満足やご家族の安心へつなげている。 		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意見や提案事項はユニット会議などでまとめて、リーダー会議や職場運営会議、管理者会議へと繋げることに代表者に届くようになっている。 ・トップダウンではなくボトムアップ体制となっている。 		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の個性を大切にしながら、得意分野での活躍が出来るような場を持ち評価することで、やりがいを見出してもらえるようにしている。 ・職員同士のコミュニケーションも大切にして、風通しの良い職場環境づくりへと努めている。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員の力量に適した研修に参加してもらい、ユニット会議でプレゼンテーションをする場を作り研修内容の振り返り再確認する環境を作ると共に、発表することに慣れてもらう機会を設け様々なトレーニングが行える様に努めている。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣のグループホームとの交流があり、イベントへお互いに招待をすることなどを通じて課題の共有が出来たり、解決方法を見つけるきっかけを頂いたりすることが出来ている。夏祭りには互いのグループホームの夏祭りに参加して楽しむことができた。 ・地域の研修会へ参加することで顔の見える関係作りや情報交換ができケアの向上に活かしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人の様々な思いを何気ない会話や行動を真摯に受け止めることで、その人らしい生活に近づけられるように心がけている。 ・入居時に思いを受け止めた生活援助計画を作成して、1ヵ月目で日々の様子をスタッフ間で話し合い、馴染まれていく様子を確認しながら計画の見直しを行っている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事前面接を本人やご家族と行うと共に家族と個別に面談を行い思いや要望を傾聴している。 ・本人や家族の要望に耳を傾け話しやすい環境を保ち、ここでの生活が心地よく安心感を持ってもらえるように心がけて関係性を築いている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・相談時の対応としては、本人および家族の意向に耳を傾けることで「今」必要とされている状況を把握して適したアドバイスができるように努めている。 ・転倒・転落や安全面については福祉用具を検討したり、不安や役割作りはフローを越えて交流を図り、全職員で見守る体制を作っている。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭であることを念頭に入居者と職員という関係だけではなく、お互いの経験から存在する持ち味を生かせし支え合い、喜怒哀楽を共に暮らせる環境を築けるように努めている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は本人の本来の姿や思いをご家族の思いをくみ取る努力を行いながら伝えていき、協力が望める様に日々誠実な対応を心がけコミュニケーションをはかり、共に支援の方向を模索するように努めている。 ・いつでも来てもらえるように配慮し、ご家族と共にご本人を支え合う関係づくりをしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自宅の近所の方が訪ねて来られリビングで談笑されたりと交流される機会もある。また、一緒に出かけられることもある。 ・入所前に信仰していたところからの季刊誌を購読している。 ・看取りさせて頂いたご家族が絵画のサークルを通じ、定期的に絵画を交換に訪ねて下さり、馴染みの中で談話のひとつも入居者の楽しいひとときとなっている。 		
21		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・午後のひとときに自フロアだけでなく、他のフロアの入居者とトランプをしたりお菓子作りなどをする機会を持つことで、フロアを超えた入居者同士のつながりが深まっている。 ・入居者同士のよい面が互いに見えるように配慮したり、気持ちの橋わたしを行いお互いの関係に温かみのあるような支援に努めている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・退去される理由は、医療的ケアが必要になられた方が多く、ご家族とともに今後に向けて相談や情報を伝えるなど支援及び連携に努める。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の訪問時には団欒の場が保てるように配慮して、家族との関係を大切に出来るように心がけている。 ・暮らしの希望や意向を伝えにくくなっている方には、おひとりおひとりの生活リズムを大切にしていって心地よい環境作りを心掛けている。 ・日々の言動の違いや表情から行動の意図を見出せるように配慮すると共に、各職員の気づきを申し送りやユニット会議にて共有して検討するようにしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事前面接の記録やアセスメントに加えて、面会時にご家族にお話を伺ったり、日頃の会話や行動の中から得た情報を共有してその方の馴染に近づく努力をしている。 ・色々な会話の中からご家族への思い、故郷の思い出、趣味などを伺うことができる。そういう機会を大切にしながらケアに繋げている。 		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食後にバイタル測定を行い顔色などから健康状態を把握し、入浴や活動の目安にする。発熱など特変時には申し送りによる様子観察を行っている。 ・日々の何気ない言動の相違などから心の意図が見いだせる様に工夫している。 ・天気の良い日は散歩に出たり、洗濯たみなどを一緒にしたりできることや気分転換を組み合わせるよう配慮して安定した生活に繋げている。 ・レクリエーションを行う中でもその日の体調や変化を伺うことができ残存能力の把握に努めて有する力を確認維持しながら、楽しみにかえる努力をしている。 ・排便の状態が気持ちに影響することも多く、観察をしている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望やご家族の意見や意向を確認しながら作成した生活援助計画に添ったケアを行い、ユニット会議をカンファレンスとしてモニタリングを行い共有して、具体的な援助方法を再確認する。 ・医療面については看護職員に相談したり、かかりつけ医の指示のもと体調の見守りをしている。 		
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・援助計画をもとに記録を書き、その時の様子や気づいたこと、快・不快などを会話を織りこみ記録して、よりよいケアに活かす努力をしている。 ・体調の見守りが必要であり、バイタル、排便、食事、嚥下の状態などを記録しながら、気づきを共有し、食事の形態などを工夫している。 ・気づいたことを申し送り時やユニット会議にてスタッフ間で共有し、援助計画の見直しを6ヶ月に1回は実施している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人やご家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・併設の訪問介護事業所から福祉用具の紹介など情報の提供などを頂いたり、在宅での方法や工夫などを伺い参考にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・社会福祉協議会や諸団体とのネットワークは密であり、地域の取り組みやボランティアさんとのつながりは深い。 ・年に2～3回来て頂いている大正琴演奏会は皆さんの楽しみになっている。 ・お正月には氏神様や神社に初詣に行くのを楽しみにしている。 ・幼稚園児さんの訪問があり、大きな喜びとなっている。 ・書道は月に1度先生がボランティアに来て下さり、町屋での作品展にも展示してもらったり長岡天満宮の書初め展に出展するなど励みとなっている。 ・畑の世話をしてくれる人もおり、秋のお芋堀を楽しんでいる。 ・ご近所の方の庭の柿などの収穫に参加させてもらい子供の頃を懐かしまれる様子が見られる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前のかかりつけ医を大切に、主治医として訪問診療をしていただいている。もみじフロアで5名のかかりつけ医の訪問診療がある。 ・地域医師会や地域の訪問看護ステーションの理解を頂いており、主治医の指示のもと適切な医療が行える様に連携が取れるシステムを構築している。 ・在宅療養手帳にかかりつけ医、看護師、職員が記入して連携している。専門医を受診する際にも持参して、記入していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・各フロアは月に1度ではあるが、週に1度は非常勤看護師の訪問があり、日常の健康管理の相談や受診の判断の相談をしている。 ・看護師による医療的ケアの研修があり、全職員が受けた。役に立つ知識や技術について、職員が介護のなかでできることや観察力を高めることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時にご家族を介して病状及び状態の確認を行いながら、退院へ向けての支援の協力を行っている。 ・お見舞いに行くなど関係をつなぎ、安心感に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入退院を繰り返しながら低下していられる中で、退院時の受け入れを機に、再度ご本人・家族の意向をもとに家族と主治医と職員にて話し合う機会を設けて終末期の意向の書類を交わしている。 ・本人の意思とご家族の意向を確認しながら、主治医の指示のもと医療連携を行ない、その方に応じた終末期を行っている。 ・職員は研修にてスキルアップを図ると共に、非常勤看護師のアドバイスを施行することで、徐々にスキルを向上させて日々のケアに活かしている。 ・お一人お一人にあった終末期の過ごし方について看護職員とカンファを行い、最後までその人らしく過ごして頂けるよう全職員で統一ケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・スタッフルームには緊急マニュアルが貼ってあり、職員は常に確認している。 ・救命救急の講習を随時受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防署と近隣に協力を得て利用者も参加し、年2回の避難訓練を実施している。 ・日常的には避難経路の確保に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人おひとりを尊重する言葉かけを心がけている。聞こえにくくなった方への配慮や他者同士の関係にも配慮して、言葉や内容を考えて対応している。 ・入浴や排泄において全介助を必要とする方も増えてきている。羞恥心のないように同性介助や言葉かけも含めて、寄り添うケアに努めている。 		
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ時はゆっくりと低めの声にて話しかけたり、介助時も行動を伝える工夫を行うことにて、入居者の理解と協力のうえ行うように努めている。 ・お一人おひとりの気持ちや思いを適宜、その方の表現方法から感じ取れるように心がけてる。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や天候なども考慮しながら散歩、レクリエーションへの参加、入浴など希望に添うことを優先している。 ・居室で過ごしたい方には訪室して、安心して過ごせるよう声掛けを行っている。 ・食事に時間のかかる方もあり、その方のペースで食べてもらえるよう見守っている。お一人おひとりの生活ペースを大切にしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・気候の変化や着脱の有無が難しくなっておられる方が多くなる中、季節や家族が選んで用意して下さった物などを中心に、考慮して着用していただいている。またお誕生日などの機会にて、好みに近い物をプレゼントさせていただく事にて、おしゃれを楽しんでいただけるように心がけている。 ・衣服の汚れや着用の乱れには速やかに対応できるように、常に気配りを行うように努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の固さを入居者の好みに合わせ柔らかくしている。 ・野菜なども柔らかくしており、必要な人にはお粥やミキサー食・とろみなど、咀嚼や嚥下の力に合わせた調理をしている。 ・口腔ケアを行い口腔内の乾燥を防ぎ、水分を先にとってもらうことにより嚥下をスムーズに行えるようにしている。口から食べることを大切にして支援を続けている。 ・ご自分から野菜を切ったり、食器を洗って下さる方もあり、段取りを伝えながら和やかに準備や後片づけができています。 ・介助が必要な方も増えている。傍に寄り添って和やかな雰囲気ですべてを食べてもらっている。 ・重度の方も・食事中も嚥下に配慮しながら会話する事で楽しい食事中の雰囲気を心がけている。 		
41		○食事を楽しむことのできる支援食量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量のチェックにより、食欲や体調の変化にも留意している。 ・咀嚼や嚥下が低下している方にはミキサー食やとろみをつけたり、おかゆを提供している。 ・ゆっくり時間をかけ介助し、誤嚥を防いでいる。 ・1度に必要量食べられない方には、医師を相談し栄養剤(ラコール)を飲んでもらっている。また、おやつでも栄養やカロリーがとれるよう工夫している。 ・水分と排尿量と対比している人もある。 ・夜間時にも必要に応じて水分補給をし、脱水予防をしている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・食後、洗面所にて義歯洗浄、うがいを促す。ご自身にて行うことが難しい方は、手伝い行なっていただく事にて誤嚥を起ささないように配慮している。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄時には尿量や排泄時間を記録して、体調の見守りや次のトイレ誘導につなげてりしている。 ・尿意を訴えられない方に対しても、立ち上がったタイミングや仕草の把握を心がけて、トイレやポータブルトイレでの排泄により、快適に過ごせるように配慮している。 ・夜間尿量の多い人は声掛けをしてトイレ誘導をして気持ちのよい入眠に繋げている。 		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分の補給を促している。バナナをジュースにしたり、ホットミルク、ヨーグルトなどを提供したりしている。適度な運動を促す。 ・医師に相談し、緩下剤を服用している方もある。 ・腸の動きがよくなるように体を温めたり、腹部マッサージを行ったりしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調や生活ペースを考慮しながら、ご本人の希望に添えるよう、時間やタイミングを考え、気持ちよく入浴していただけるよう工夫している。 ・体調によりシャワー浴や清拭、足浴、手浴で対応することもある。 ・身体機能に合わせ座面が上下するリフト浴を利用し、身体や移動の負担を少なくして入浴を楽しんでもらっている。 		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の生活習慣を大切にしながら、快眠していただけるように、個々のケアを提供している。 ・休息を必要とする方や長時間座位がとれない方には横臥する時間をもち、体調を整えてもらっている。 ・主治医の指示に寄る入眠導入剤の服用をされている方もあり、服用してもなかなか眠れない時には、温かい飲み物を提供したりお話しすることで気持ちに寄り添い、安心感を持ってもらいリラックスができるように配慮する。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の薬の内容と副作用等を理解して主治医の指示のもと服薬の支援をしている。 ・投薬時は誤薬や飲み落としがないように充分注意して行う。 ・体調不良時などは、バイタル状況や病状の説明を主治医に行う事で、医療につなぐ支援を行う。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・お一人おひとりの興味や関心のあることを生活歴や嗜好から見出して行えるように工夫する。 ・外出困難な方には散歩やドライブなどへ出かけることにて、気分転換が行えるように、施設全体にて取り組み参加していただいている。 ・日々は他のフロアとの交流の機会が増え、トランプをしたりお菓子作りや手芸等を行い楽しんでいる。 ・雑談をされる中で、新聞やTVのニュースを職員に話し様々な情報を提供くださることを張り合いに思っておられる方もある。 ・ご自身の家事の経験などを若い職員に伝えることや、夜勤の職員に毛布や暖をとる物を提供することなどを、役割と感じておられる方もあり、お気持ちを受け止めることを大切にしている。 ・季節ごとの行事を企画して持てる力を活かして交流したり、楽しみの持てる時間を提供している。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の体調を充分に考慮しながら、桜や紅葉など季節を肌で感じていただけることを大切にしている。 ・個々のフロアだけでは計画できにくいことも、施設全体の計画とする。 ・野鳥園に行ったりはなを買いに行ったりなどドライブも随時フロアで声を掛けあって行っている。 ・ご家族が外食に連れて行かれたり、ご友人と出かけられる方もある。 		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご自身での管理が出来ない方がほとんどとなられて、買い物支援は行えていないが、状況により同行していけるような環境ではある。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・遠方の家族やご親戚などからの電話連絡はその都度取次ぎ、聞き取りにくい方などは状況により工夫をしている。 ・家族や入所前から交流のある方からの手紙を楽しみにされている方もある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を感じていただける雰囲気作りを心がける。何かを作る楽しみとすべてを自身で作成することは難しくなったものの、できる事を大切にして作品を製作し、リビングの壁画に飾ったり居室に飾ったりする中で会話を広げ、自信や居心地のよさにつなげている。トイレ使用後は清潔感を保ち、臭いにも配慮をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファの位置をかえたり座る場所を配慮して、安心できる居場所づくりや利用者同士のつながり、安心した関係を保てるよう配慮している。 ・リビングの一角に自分の好きなスペースを作っている人もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室にはご本人が今まで使われていたものを持ちこんだり、写真を飾っていただいたりして、自由に居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。 ・こたつを使用している方もあり、生活感を大切にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・居室の出入り口、廊下には手すりが設置されている。 ・浴室は座位にて浴槽に入れるような機械浴が設置されており、車椅子の方も介助できるように出入り口にはリフトが設置されている。		